平成２２年度　第２回　ＣＣＣ教育学グループ運営委員会　議事概要

Ⅰ．日　時：　平成２２年９月８日（水）１０時から１２時まで
Ⅱ．場　所：　私立大学情報教育協会　事務局　会議室
Ⅲ．出席者：　難波委員、三尾委員、竹熊委員
（事務局）井端事務局長、森下主幹、渡邉職員
Ⅳ．議事概要
１．資料の紹介
まずは、８月末に出された、中教審答申についての資料が配付された。「免許証更新制」は継続することが決まったとのことである。
その他、配布資料は以下の通り。
①教育学教育における学士力の考察
②学士力の実現を目指す ICT 活用　授業の開発モデルの例示（メモ）
③.1　学びの意義と教育の必要性を論理的、分析的に説明できる教育モデルの提案
③.2　教育学プレゼミⅠ（人と学習、人と情報）」の授業紹介（ICT 活用事例）
④各論点に関する主な意見（第３回　教員の資質能力向上特別部会まで）
各分野における参照基準の作成のためのサンプル（教育学）を含む

２．検討事項（学士力実現に必要な ICT 活用の具体的な検討）
１）学びの意義と教育の必要性を論理的、分析的に説明できる教育モデル授業実践の紹介
まずは、学士力１の教育モデルとして、委員が初年次教育を含めて行っている「教職入門」という授業についての紹介があった。
授業は、班活動と発表と全体討論で構成される。班活動は、入学したばかりで自分の意見が十分に言えない学生を対象として、自分の意見を述べる訓練を行うことを目的としている。同様に、発表では意見をまとめること、全体討論では大勢の前で意見を述べることをねらいとしている。
ICT 活用に関しては、「ICT 教育として」というテーマの授業の際に、教室に iPad や端末を使い能動的な授業、e-黒板などの活用について検討している。さらに、Moodle という電子掲示板を利用し、事前に意見交換を行い、学生自身（総合司会役）が次回の授業のテーマを提示する等している。また、大学自体が教室に PC 常設、プロジェクターなどの電子機器も自由に使える環境が整っている。しかし、授業では、ICT はあくまでも補助として用いており、グループ活動などを通じての「協学・協働」を授業の主眼としている。さらに、課題レポートを２回（１回目 3000 字以上、２回目 4000 字以上）提出させるとともに、毎回の授業の最後にその授業をまとめる形で課題ペーパーを作成させ、最終的に定期試験をうけることにしている。
上記授業に関連しての議論は以下の通りである。

・ 上記の授業は、非常に個性的であるが、この中で他の教員も共通して利用できるモデルとして有効なのは、班活動（グループ学習）ではないか。
・ 到達度に対して確実に学びを身につけさせるための仕掛けはどのようにするか。
・ （委員回答）まず、Ａグループが発表したら、Ｂグループがコメントを行う。また発表者に偏りがでないように、グループのリーダー（司会）も全員に割り当て、発表等の役割分担もリーダーが行うようにしている。従って、事前の学びがなければ、授業本番での議論に参加できない。しかし、このような授業方法でも前期にドロップアウトしたものは僅かに１名であった。教員は、授業そのものは総合司会や班のリーダーに任せているが、授業後に提出された授業メモや課題ペーパーへのコメントを毎回行ない、フィードバックしている。
・ そうしたコメント（個人ではなく、班の議論に対する）も moodle に載せると、他のグループへの刺激にもなり、到達目標の実現に向けて、ICT の有効な利用につながるのではないか。

２）教育学プレゼミＩ（人と学習、人と情報）の授業実践の紹介

続いて、学士力１に相当する一般的な教育モデルとして、大学で既に行っている「教育学プレゼミＩ（人と学習、人と情報）」の授業が紹介された。まず、前半（人と学習）では、ディベート方式の授業を行い、最終的にレポートを提出する。また、後半（人と情報）では、トピック（携帯電話、ネットワーク）について、教員が講義を行った後、グループ討議を行い、最終的にレポート（6000 字）を提出させている、その際、大学のディスカッション機能（ＢＢＳ）を使用している。

また、学士力２（実態に応じた学びを教育としてデザインできる）の教育モデルとして、実践事例を２例紹介頂いた。

まずは、「教育方法学」の授業で、基本的には講義であるが、教育の実際の場面のビデオを見せて、それに対してディスカッションさせる。また、感想も書かせている。もっともシンプルな ICT 利用である。

もう一方は、「授業技術演習Ａ」で、教職の授業に特化したものではあるが、マイクロティーチング（15 分間）を実施し、設計、実践、評価というサイクルを 15 週で２回おこなうことにしている。その際、授業風景をＳＤカードに録画し、自身の授業をパソコンで振り返って見ている。他の教員の授業では、この録画をネットにあげて、相互評価できる様にしている。また、マイクロティーチングの評価表をそれぞれ、Excell ファイルに入力、レーダーチャートなどを作成させている。

３）次回までの課題について

（１）「教職入門」の授業は、到達目標１の②、測定方法も②として提示できるのではないかという意見が出された。また、(2) 実態に応じた学びを教育としてデザインできる教

育モデル事例は到達目標２の③に相当するということで意見が一致した。

これらを受けて、以下のような形で次回までの課題が提案された。配付資料の学士力の実現を目指すICT活用授業の開発モデルの例示を作成頂きたい。その場合、「２．ICTを用いた授業デザイン」とあるが、授業のねらいについては、ICT 利用をメインにする必要はない。また、学習環境については、「理想的な部分」も含めて示して頂きたい。さらに「３．ICT を活用した授業運営上の問題及び課題」については、ガバナンスも含めた形で示して欲しいとのことである。OBやOGが後輩の指導をしたり、学校の現場を伝えるためにICTを利用したりといったことも提示できれば、授業の改善はもとより、そのシステム自体が社会的な財産にもなるであろう。

なお、到達目標３の②として、「国際理解教育論」を紹介して頂く。中華学校や朝鮮人学校の実情について、映像を通じて紹介しているとのことであるが、それらの学校の生徒達とチャットで会話するといったこともできるのではないか。今行っている授業の紹介にとどまらず、モデルとしての形を構想頂きたい。ICT を使うことが目的ではなく、まずは、授業デザインが重要である。授業の過程の中でもしも ICT が有効に使用されるのであればそれを示す。むしろパワーポイントだけ使えばいいといったような ICT ありきを否定して頂きたい。そして、個人の授業ではなく、大学全体としてのガバナンスの整備を訴えたいと考える。

以上より、次回までは到達目標１の②、到達目標２の③、到達目標３の②について資料をＡ４・２枚程度で、整理し、紹介することとなった。そのために、それを記入しやすいように、事務局の方で表のフォーマットを作成し、送って頂き、その表を各委員が事前に作成、確認した後に話し合うこととする。

次回会合は、　11 月１日（月）15 時から開催される予定である。